

平成 26 年 3 月 1 日

おきなわサンゴ礁ウィーク 2014 開催のご挨拶

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会
会長中野義勝

おきなわサンゴ礁ウィーク 2014 の開会式にあたり、主催団体を代表しまして
ご挨拶申し上げます。

沖縄を含む琉球弧の島々はサンゴ礁に育まれてきました。これらの島々に暮らす私たちに、サンゴ礁は食・住のみならず心の安寧も保証してくれました。その機能の多くが、飛躍的に発展したテクノロジーで代替可能となった現代社会においても、程順則のひいた六諭衍義に言う「郷里と和睦する」といった地域のアイデンティティー確立一つをとってみてもその価値は衰えることなく、むしろ増しているものと思います。

2010 年、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が名古屋で開催されました。この際採択された愛知目標の達成に向けて、締約国として国内で整備された生物多様性国家戦略 2012-2020 の下、2013 年に沖縄県においても生物多様性地域戦略「生物 多様性おきなわ戦略」が策定され、サンゴ礁も多様性保全において新たな価値を与えられるとともに、生物多様性保全は地域の活動に重きを置くことが確認されています。

今般の主催団体である当協議会はサンゴ礁保全に関わる多くの主体の連携を促す機関として平成 20 年（2008 年）に設立されました。趣意書には、「様々なサンゴ礁保全への取り組みを相互に連携させて持続的に進めていくことの大切さ」が確認され、「持続可能なサンゴ礁の利用による地域づくりをすすめ、多様な参加と協力が行える仕組みを用意することの必要」が謳われました。これを受けて、当協議会は会員による情報交換会の開催・ホームページの運営・シンポジウムの開催などの活動とともに寄付を原資とする活動助成を行ってきました。この度、先行する石垣島サンゴウィークを範に、サンゴの日を中心に「おきなわサンゴ礁ウィーク」を主唱し、さらに多くの主体の参加によって多くの

市民の皆さんのサンゴ礁への関心を喚起することといたしました。今年はその第1回となりますが、主催者の心配をよそに多くの賛同者にご参集いただきこのような盛会となり感謝申し上げますとともに、この週間に開催されます様々な企画の主催者のみなさまのサンゴ礁保全への見識の高さと心意気に敬意を表するところです。

沖縄県では開発により既に多くのサンゴ礁が失われ、残されたサンゴ礁においてもサンゴをはじめとした多くの生物ばかりでなく、サンゴ礁に起因する文化もまた危機に瀕しているのも事実です。このような危機の認識を深めその克服に努める皆さんの姿は、多くの市民の共感を呼ぶことでしょう。その一つの帰結として、多くの市民の生活する県庁所在地那覇あるいは世界遺産首里城から望める新たな国立公園として「慶良間諸島国立公園」が、この週間中3月5日に指定されることは、沖縄県民にとって意義深いものです。これらの動きの中から、サンゴ礁を地域の新たな産業資源と位置付け、持続的に利用してゆくためのルール作りなども加速されるものと思います。

このような状況においておきなわサンゴ礁ウィークが開催できますことも、時宜を得たものかと思えます。

ご参集いただきました皆さまにおかれましても、これを新たな足がかりとして沖縄の未来を育むサンゴ礁を守り伝えてゆく活動につなげていただければ、主催者として喜びに堪えません。また、多くの市民のみなさまにはこれをサンゴ礁に触れる機会としてご活用いただき、よりサンゴ礁を身近に感じ・考え・行動していただければ幸いです。

当協議会としましても、この週間の環がさらに広がるよう今後とも働きかけてゆきたいと思えます。